

(統計史料でみる明治・大正期【その3】附録)
第1回国勢調査に係る官報広告

奥積 雅彦 (総務省統計研究研修所教官)

大正9年(1920年)7月から9月末までに21回、第1回国勢調査の官報広告が掲載されていたので紹介します。

【画像】国立国会図書館デジタルコレクション*

1920年7月1日



【一ロメモ】このデザインは記念絵はがき(【参考】参照)にも採用されており、調査の概要が端的に表現されています。

1920年7月10日



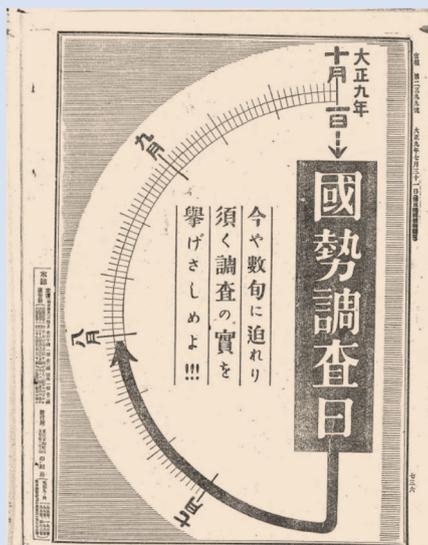
【一ロメモ】夜行性のふくろうが調査時を想起させるデザイン。ちなみに、当時、ふくろうの形をした時計が人気だったらしいです。

1920年7月21日



【一ロメモ】日本地図と調査時を指す時計台が全国一斉に実施することを想起させるデザイン。ふくろうも登場しています。

1920年7月31日



【一ロメモ】国勢調査の調査日が迫っていることを周知するデザイン。

1920年8月5日



【一ロメモ】日本地図をあしらった鐘が全国一斉に実施することを周知。

1920年8月10日



【一ロメモ】国勢調査の調査時を端的に周知するデザイン。

* 画像は、それぞれの日付の官報から転載。

【参考】官報よりもやや鮮明な画像は、印刷局「第一回国勢調査宣伝官報広告集」参照。

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/967529/4> (国立国会図書館デジタルコレクション)

1920年 8月16日



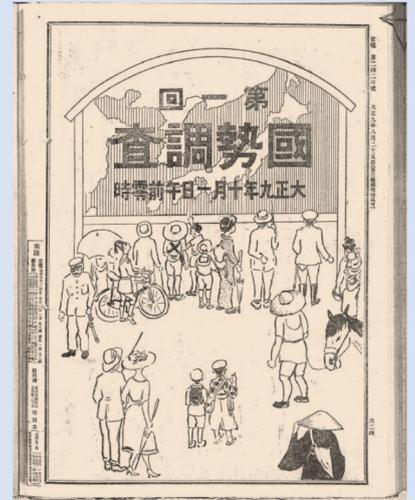
【一ロメモ】戸籍の巻物を手する大化年間の国司をデザインした第1回国勢調査の記念切手を想起します。

1920年 8月20日



【一ロメモ】国勢調査の調査時と調査事項を周知するデザイン。

1920年 8月25日



【一ロメモ】国勢調査の調査時を周知するデザイン。大人や子どものほか修行僧も注目しています。

1920年 9月1日



【一ロメモ】「善政の基礎」というコピーと天使の登場するデザインが印象的です。

1920年 9月6日



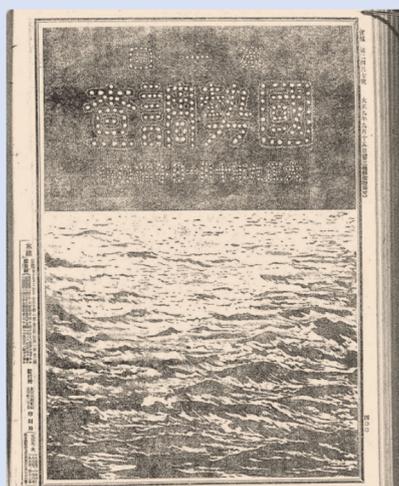
【一ロメモ】当時は、飛行機で国勢調査の宣伝ビラの撒布も行われていました。

1920年 9月10日



【一ロメモ】蓄音機により第1回国勢調査の実施を訴えるデザイン。ちなみに、明治43年(1910年)に国産蓄音器の第1号が発売されました。

1920年 9月15日



【一ロメモ】電飾で「第1回国勢調査」の調査時を表現しています。

1920年 9月20日



【一ロメモ】当時は、旗行列で国勢調査の宣伝も行われていました。

1920年 9月21日



【一ロメモ】「各自の国家的自覚を俟つ」というコピーが印象的です。「俟つ」は、「期待する」というニュアンスとみられます。

1920年 9月22日



【一ロメモ】「周到二行ハレンコトラ望ム」のコピーが印象的です。※「周到」は、すみずみまで注意が行き届いて、落ちがない有様を含意。

1920年 9月25日



【一ロメモ】「国民協力」のコピーが印象的です。

1920年 9月27日



【一ロメモ】当時の活動写真の齧フィルムをあしらって7月、8月、9月の齧を経て調査時が近づいていることを訴求。

1920年 9月28日



【一ロメモ】古代ローマにおいて、市民の登録（人口調査）を担当する職員（Cencor）が「正確周到」に調査することを訴求しているようにもみえます…。

1920年 9月29日



【一ロメモ】国勢調査の有用性（国の針路の判断に必須）を訴求しているようにもみえます…。

1920年 9月30日



【一ロメモ】「日めくりカレンダーの絵（日付が9月30日から10月1日の調査時に）」と「文明事業」や「いよいよ迫る」のコピーが印象的です。

【参考】

日本国勢調査記念録 第2巻（記念切手と記念絵葉書）



国勢調査記念絵葉書の官報広告（1920年09月01日）

